

地方競馬益金
補助事業

平成 10 年度

めん羊・山羊の特定疾病対策事業

山羊市場実態調査報告書

平成 11 年 3 月

社団法人 日本 緬羊 協会

ま え が き

(社)日本緬羊協会は、平成10年度も地方競馬全国協会が推進している畜産振興補助事業の補助を受けて「めん羊・山羊の特定疾病対策事業」を実施いたしました。

この事業は、めん羊・山羊の疾病に関する解説書の作成配布、生産振興のための疾病を含む情報提供等を行う交流会の開催、実態調査報告書の作成配布を実施して、めん羊・山羊を振興しようとするものであります。

この事業の中で山羊市場の実態に関する調査の報告書及びめん羊・山羊の重要疾病に関する解説書を作成して関係者に配布することとなり、この報告書では、山羊市場の実態について調査結果を報告することといたしました。

山羊は未利用資源を有効に利用でき、山羊乳利用や肉消費の拡大等により、中山間地等における地域振興の一作目として期待が寄せられています。このため、現在山羊を飼養している農家や新規に山羊飼育を始めようとする希望者等関係者は、山羊飼養の情勢や山羊市場に関する情報を強く求めているのが現状であります。

このような状況の中で山羊の振興を図るためには一つの方法として、相互に直結している生産と流通に関する実態を調査し、その調査結果を情報として提供することが大切であることから、一般情勢を含めて山羊市場の実態を調査し、報告書を作成することといたしました。この報告書が山羊飼育の関係者や関係機関に広く活用されることを期待してやみません。

事業の実施に当たりましては、ご指導ご協力を賜りました畜産局関係担当官、企画検討を煩わせました委員各位及び実態調査の労を賜りました信州大学の高木優二先生並びにご協力をいただきました調査地の関係各位に対し、衷心より厚くお礼を申し上げます。

さらに、今回も絶大なご援助を賜りました地方競馬全国協会に対しましても深く感謝の意を表します。

平成11年3月

社団法人 日本緬羊協会
会 長 豊 田 晋

目 次

． 調査の目的	1
． 調査の場所及び調査の方法	1
． 調査の結果	1
1． 全国の山羊飼養の状況	1
1) 山羊の飼養動向	1
(1) 飼養戸数及び飼養頭数の動向	1
(2) 地域別飼養戸数及び飼養頭数	3
2) 山羊肉の流通動向	4
(1) 山羊肉の流通動向	4
(2) 地域別流通動向	4
(3) 山羊肉の輸入量	5
2． 山羊セリ市場の動向	5
1) 長野県下伊那山羊市場の動向	5
(1) 長野県の飼養状況	5
(2) 下伊那子山羊市場の動向	6
2) 群馬県渋川市における山羊市場の動向	7
(1) 群馬県の飼養状況	7
(2) 群馬県渋川市における種山羊交換会の動向	8
3) 愛知県新城市における山羊市場の動向	9
(1) 愛知県の飼養状況	9
(2) 愛知県新城市における新城山羊市場の動向	10

山羊市場実態調査報告書

．調査の目的

未利用資源を有効に利用できる山羊は、近年、生産物である山羊乳利用と山羊肉消費の高まりなどにより、中山間地等における地域振興・活性化の一作目として期待が大きく、山羊関係者から生産と生産物利用、消費・流通等の関係情報が強く求められている。

山羊の振興には、山羊の生産と流通が大切な要件であり、関係者はこの関係をしっかりと把握し、両者を円滑に連結させ車の両輪の如く回転させることが発展につながるものと思われる。

現今の山羊飼養の目的は、一部を除き薫育及び肉用山羊生産が主体となっており、そのかなりの部分は山羊セリ市場において取り引きされているのが現状である。

我が国には山羊の主要生産・供給地の3地域にセリ市場があり、ここの取引価格は他地域における山羊取引価格決定に指標的な役割を果たしている。従って、この3カ所の市場の実態を把握することは、我が国山羊飼養の動向を把握しようとする上で重要である。

そこで、今後の山羊振興を図る一つの方法としては、3カ所のセリ市場の実態を把握し、その実態を情報として提供することが関係者にとって有用であると考え、山羊の一般情勢を加えて3カ所の山羊市場の実態について調査を実施した。

．調査の場所及び調査の方法

山羊の一般情勢については統計資料等を収集してデータを解析するとともに、山羊市場が開設される長野県下伊那地区（飯田市、羽根村）、群馬県渋川市、愛知県新城市に向向いて現地調査を行い、併せて過去の市場成績等資料を収集して解析を行った。

．調査の結果

1．全国の山羊飼養の状況

1) 山羊の飼養動向

わが国では大きく日本在来種と日本ザーネン種の二種類の山羊が飼養されている。前者は、明治以前より九州南部、沖縄で広く飼養されてきた肉用山羊であり、後者は、明治以降盛んに西欧から導入され長野と群馬を中心に山間部の農家で飼養されてきた乳用山羊である。これら山羊飼養を取巻く状況は、日本の高度経済成長に伴い著しく変化してきた。

(1) 飼養戸数及び飼養頭数の動向

戦中戦後の食料事情の悪かった時期に農村における貴重な栄養源としての山羊乳が注目され、かなりの農家で飼養されてきた。しかし、牛乳や乳製品の普及に伴う食料事情の好転、日本経済の高度経済成長による農業経営基盤の変化により、全国の飼養戸数及び頭数は表1及び図1に示したとおり、昭和32年には61万戸及び67万頭（いずれも復帰前の沖縄

表1 山羊の飼養戸数、飼養頭数、屠畜頭数、枝肉生産量及び輸入量の推移

年次	飼養戸数 1) (戸)	飼養頭数 1) (頭)	1戸当たり頭数 (頭/戸)	屠畜頭数 2) (頭)	枝肉生産量 2) (t)	山羊肉 3) 輸入量(t)
1957(昭32)	606,440	669,200		-	-	-
1958(33)	-	-	-	-	-	-
1959(34)	545,020	589,230	1.1	-	-	-
1960(35)	517,300	560,900	1.1	-	-	-
1961(36)	482,000	519,900	1.1	-	-	-
1962(37)	456,300	498,600	1.1	-	-	-
1963(38)	421,400	464,200	1.1	-	-	-
1964(39)	363,900	400,600	1.1	-	-	-
1965(40)	294,500	325,100	1.1	93,999	1,316	-
1966(41)	255,100	280,500	1.1	-	-	-
1967(42)	221,500	245,900	1.1	-	-	-
1968(43)	202,000	222,900	1.1	-	-	-
1969(44)	175,500	197,600	1.1	-	-	-
1970(45)	145,200	164,500	1.1	98,778	814	-
1971(46)	140,600	160,200	1.1	79,308	620	-
1972(47)	115,500	130,100	1.1	67,505	574	-
1973(48)	101,000	137,000	1.4	55,068	484	-
1974(49)	83,200	124,000	1.5	32,722	364	-
1975(50)	67,200	110,800	1.6	24,611	216	58
1976(51)	56,500	94,400	1.7	15,245	117	-
1977(52)	48,800	82,200	1.7	9,205	128	-
1978(53)	43,500	78,500	1.8	6,947	106	-
1979(54)	37,400	70,700	1.9	5,067	77	-
1980(55)	-	-		4,468	76	74
1981(56)	29,100	61,700	2.1	3,535	68	31
1982(57)	26,100	59,900	2.3	3,331	77	58
1983(58)	23,400	57,300	2.4	3,369	83	-
1984(59)	21,200	54,400	2.6	4,564	104	89
1985(60)	19,300	50,500	2.6	6,763	118	127
1986(61)	17,600	47,500	2.7	7,066	127	66
1987(62)	16,700	47,600	2.9	6,736	124	42
1988(63)	14,200	41,000	2.9	6,668	140	133
1989(平元)	12,600	36,500	2.9	5,928	141	134
1990(2)	11,100	34,500	3.1	6,135	146	195
1991(3)	10,300	36,500	3.5	6,655	160	162
1992(4)	8,870	35,100	4.0	7,674	218	163
1993(5)	8,080	33,800	4.2	7,696	248	166
1994(6)	7,120	31,000	4.4	7,174	220	127
1995(7)	-	-		6,226	153	172
1996(8)	-	-		6,128	116	173
1997(9)	5,280	28,500	5.4	-	-	208

1) 農林水産省「畜産統計」

2) 農林水産省「第73次農林水産省統計表」及び(社)日本食肉協議会「食肉関係資料」

3) 農林水産省「畜産物流通統計」及び日本関税協会「日本貿易月表」

注:昭和48年以降は沖縄県を含む。

県を除く)に達していたが年々その数は減少し、戸数は平成9年現在で5,280戸と約40年間で約100分の1にまで減少した。戸数の減少とともに飼養頭数も減少し平成9年現在で28,500頭にまで減少している。一方、1戸当たりの飼養頭数は昭和48年頃までは約1頭であったが、年々上昇する傾向にあり、平成元年には2.9頭にまで増加した(表1、図2)。

さらにこの頃を境にして増加傾向が著しく、平成9年現在で5.4頭と飼養規模が拡大し、乳用山羊としての自家消費型飼養から肉用や実験動物用などへ山羊の経営形態の変化を如実に表している。

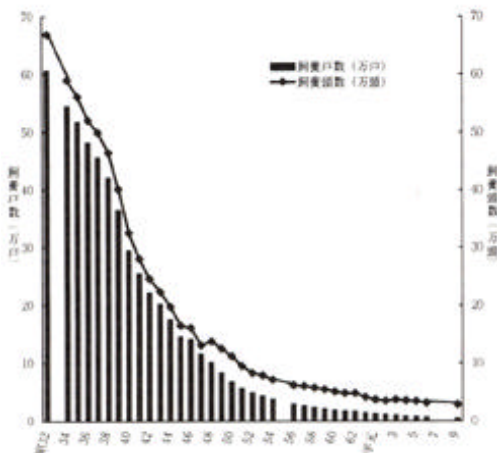


図1 山羊の飼養戸数及び飼養頭数の推移

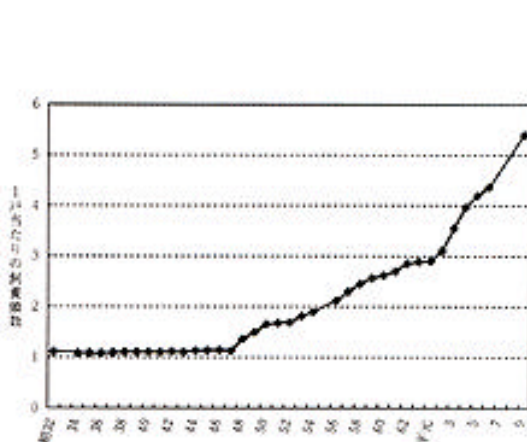


図2 1戸当たりの山羊飼養頭数の推移

(2) 地域別飼養戸数及び飼養頭数

平成9年の飼養戸数の地域別割合を図3に示した。沖縄県は全国の42%、鹿児島県は25%と、沖縄県と鹿児島県で全国の飼養戸数の約7割を占めている。同地域以外では、長野県、岩手県、群馬県において飼養戸数が多い。飼養頭数の地域別割合(図4)も同様に沖縄県及び鹿児島県で全体の約7割を占め、同地域で多くの山羊が飼養されている。沖縄

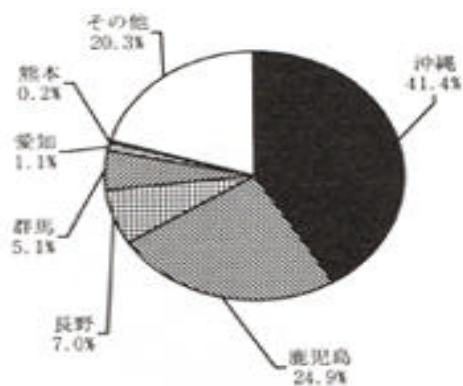


図3 地域別山羊飼養戸数割合 (平成9年度)

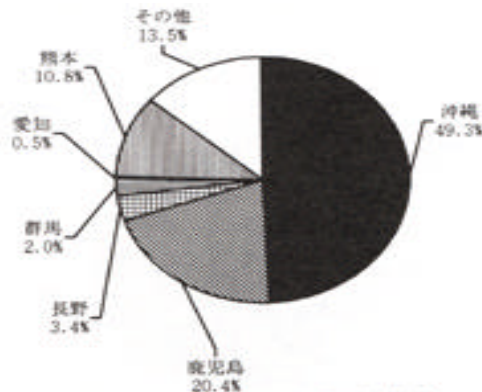


図4 地域別山羊飼養頭数割合 (平成9年度)

県、鹿児島県以外では熊本県、長野県の飼養頭数が多く、沖縄、鹿児島、熊本を中心とする九州・沖縄地区と長野、群馬を中心とする関東・甲信越地区に二分されている。

2) 山羊肉の流通動向

(1) 山羊肉の流通動向

肉畜としての山羊の屠畜頭数は昭和45年をピークにして昭和57年頃まで急激に減少した(表1、図5)。しかし、その後上昇傾向に転じ、現在では毎年7,000頭前後で推移している。枝肉生産量も屠畜頭数に比例して推移しているが、平塚5年頃をピークにして増加が認められる。

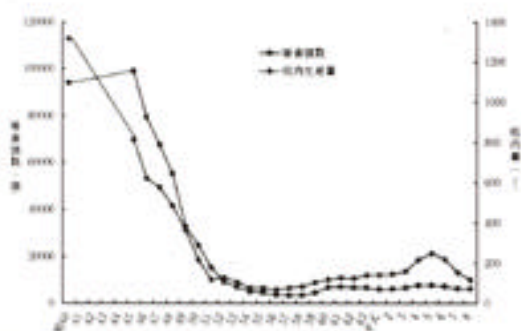


図5 山羊屠畜頭数及び枝肉生産量の推移

表2 平成7年度地域別山羊屠畜頭数及び枝肉生産量

地域	屠畜頭数(頭)	枝肉生産量(t)
北海道	44	1.2
東北	279	6.9
関東	175	4.5
信越	14	0.4
北陸	12	0.3
東海	15	0.3
近畿	25	0.5
中国	28	0.7
四国	1	0
九州(鹿児島除く)	77	1.8
鹿児島	1801	43.8
沖縄	3755	92.4
合計	6226	152.8

第72次農林水産省統計表(平成7～8年より抜粋)

(2) 地域別流通動向

平成7年の地域別屠畜頭数及びその割合を表2と図6に示した。地域別飼養頭数と同様に沖縄県は全国の61%、鹿児島県は29%と、沖縄県と鹿児島県で全国の屠畜頭数の9割を占めている。両県以外では山形県の割合が比較的高かった。枝肉生産割合(図7)も同様に沖縄県及び鹿児島県で全体の9割を占め、同地域でその殆どが生産されている。

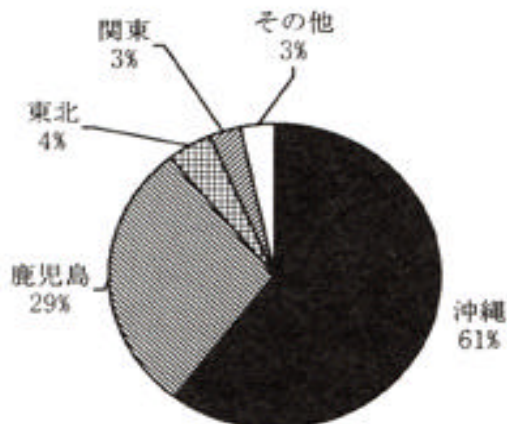


図6 地域別山羊屠畜頭数割合(平成7年度)

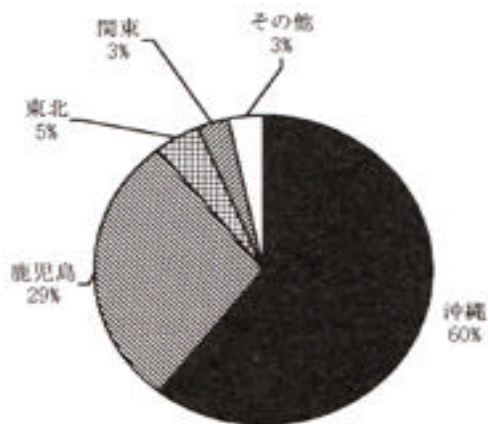


図7 地域別山羊枝肉生産割合(平成7年度)

(3) 山羊肉の輸入量

山羊肉の海外からの輸入量を表1及び図8に示した。昭和62年の年間輸入量は42tと国内枝肉生産量の3分の1であったが、変動はあるものの年々上昇し、平成9年には208tと約5倍に増加している。国内の枝肉生産量と輸入量の総量を図9に示した。平成5年には総量で400tを越えているものの、300t前後で推移している。

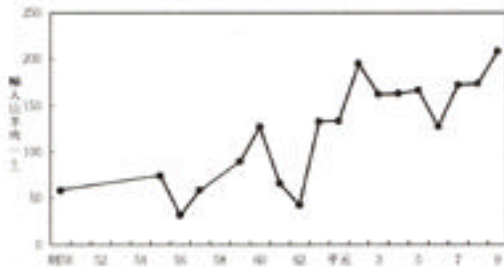


図8 山羊肉輸入量の推移

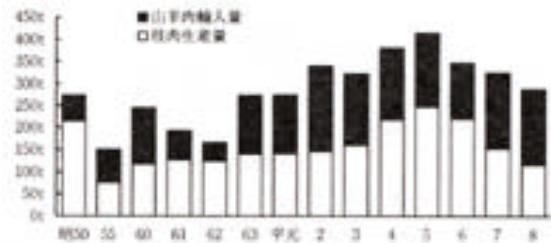


図9 鶏肉生産量及び輸入量の推移

2. 山羊セリ市場の動向

山羊のセリ市場が毎年定期的に行われている長野県下伊那地区（7月上旬）、群馬県渋川市（9月下旬）及び愛知県新城市（6月上旬）の3カ所の市場動向を調査した。長野県と群馬県においては、各市場で取り引きされた山羊の個体データをもとに価格変動について検討した。

なお、両市場において雌雄の記載のなかった個体は、雌雄別データから除外したが、雌雄合計のデータには加えてデータの処理を行った。新城市については愛知県経済連の取りまとめたデータをもとにその動向について検討した。

1) 長野県下伊那山羊市場の動向

(1) 長野県の飼養状況

長野県では明治32年から乳用山羊が飼育され、現在も長野県の子種は乳用種の日本ザーネン種である。飼育頭数は明治、大正、昭和と順調に増加し、第二次世界大戦時に僅かに減少したものの、昭和32年には60,710頭にまで飼育頭数は増加した。その後、食糧事情の好転と牛乳の普及に伴い飼養戸数及び飼育頭数は減少傾向に転じ、平成9年の飼養戸数及び飼育頭数は、それぞれ370戸及び960頭まで減少している（表3、図10）。また、全国の飼養戸数及び飼育頭数に対する長野県の戸数及び頭数の割合も年々減少する傾向にあり、平成9年の飼養戸数及び飼育頭数の割合は、それぞれ7.0%及び3.4%まで減少している。

長野県内の主な飼養地域は、長野県南部の下伊那地域、東部の佐久地域、北部の長野地域の3地域である。生産された山羊は、一部実験用や血清製造用に出荷されるが、殆どは、九州・沖縄に向けて肉用として出荷されている。

長野県佐久市には、わが国唯一の山羊改良増殖施設である農水省家畜改良センター長野

表3 長野県の山羊飼養戸数及び飼養頭数の推移

表3 長野県の山羊飼養戸数及び飼養頭数の推移

年次	飼養戸数 (%) ¹⁾	飼養頭数 (%) ¹⁾	1戸当たりの頭数 (頭/戸)
1975 (昭50)	16,800 (25.0%)	18,500 (16.7%)	1.10
1986 (61)	2,990 (17.0%)	3,900 (8.2%)	1.30
1987 (62)	2,740 (16.4%)	3,920 (8.2%)	1.43
1988 (63)	2,230 (15.7%)	3,780 (9.2%)	1.70
1989 (平元)	1,840 (14.6%)	2,740 (7.5%)	1.49
1990 (2)	1,630 (14.7%)	2,670 (7.7%)	1.64
1991 (3)	1,360 (13.2%)	2,690 (7.4%)	1.98
1992 (4)	940 (10.6%)	2,180 (6.2%)	2.32
1993 (5)	790 (9.8%)	2,020 (6.0%)	2.56
1994 (6)	540 (7.6%)	1,600 (5.2%)	2.96
1995 (7)	-	-	-
1996 (8)	-	-	-
1997 (9)	370 (7.0%)	960 (3.4%)	2.59

農林水産省「畜産統計」より抜粋

1) 全国飼養戸数及び飼養頭数に占める割合

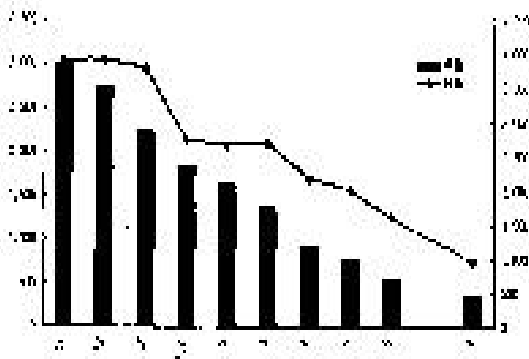


図10 長野県における山羊の飼養戸数及び飼養頭数の推移

牧場がある。同場では昭和21年度から山羊の改良増殖を行い、乳用山羊の能力向上及び種畜を全国に供給している。昭和58年以降、凍結精液による人工授精技術の実用化とその広域利用を図っている。

(2) 下伊那子山羊市場の動向

下伊那子山羊市場は、昭和24年に開設され、毎年7月上旬に共進会と併せて開催されている。開設当初の出場頭数は20数頭と僅かであった。しかし、昭和47年の沖縄復帰に伴い、肉用山羊としての取引が盛んになり出場頭数は増加した。昭和55年からの最近20年間の出場頭数について見ると、昭和59年に雄72頭、雌183頭、合計255頭が出場したのを最高に、約170頭前後の山羊が市場に出場している(表4、図11)。

なお、市場は長い間飯田市内で開催されていたが、平成10年は根羽村内の家畜市場に場を移して開催された。

市場の平均総売上金額は701万円に達している。また、総売上金額は、出場頭数に伴い

表4 長野県下伊那子山羊市場の取引頭数及び取引価格の推移

年次	出場頭数			総売上金額(円)	取引価格(円)		雄 取引価格(円)				雌 取引価格(円)			
	合計	雄	雌		平均±SD	平均±SD	最高価格	最低価格	平均±SD	最高価格	最低価格			
1980 (昭55)	96	37	59	2,877,600	29,631 ± 15,626	38,154 ± 14,585	91,100	12,600	24,286 ± 13,874	80,100	10,200			
1981 (昭56)	127	55	72	3,998,800	31,487 ± 13,409	34,349 ± 15,245	86,000	10,000	29,300 ± 11,451	60,300	7,100			
1982 (昭57)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			
1983 (昭58)	191	90	101	10,259,000	53,712 ± 29,417	40,011 ± 18,136	100,000	15,000	65,921 ± 32,125	191,000	15,000			
1984 (昭59)	255	72	183	9,885,000	38,765 ± 27,689	34,694 ± 20,477	129,000	13,000	40,366 ± 29,955	221,000	5,000			
1985 (昭60)	163	45	118	8,408,000	51,583 ± 28,795	47,089 ± 32,378	151,000	11,000	53,297 ± 27,260	122,000	18,000			
1986 (昭61)	145	35	110	3,977,000	27,428 ± 17,315	29,857 ± 12,047	76,000	15,000	26,655 ± 18,663	165,000	11,000			
1987 (昭62)	142	31	111	3,684,000	25,944 ± 12,196	29,516 ± 12,943	77,000	10,000	24,946 ± 11,847	89,000	11,000			
1988 (昭63)	163	35	128	6,631,000	40,681 ± 11,358	52,743 ± 13,515	101,000	35,000	37,383 ± 8,037	81,000	26,000			
1989 (平元)	176	77	99	8,737,000	49,642 ± 21,278	46,948 ± 20,728	148,000	16,000	51,737 ± 21,568	162,000	29,000			
1990 (平2)	202	73	129	11,566,000	57,257 ± 15,959	53,055 ± 17,344	125,000	30,000	59,636 ± 14,661	145,000	37,000			
1991 (平3)	239	104	135	654,000	27,364 ± 16,656	26,038 ± 12,765	101,000	12,000	28,385 ± 19,106	160,000	12,000			
1992 (平4)	163	57	106	6,515,000	39,969 ± 18,967	40,053 ± 15,903	120,000	19,000	39,925 ± 20,497	200,000	19,000			
1993 (平5)	141	63	77	3,612,000	25,617 ± 13,287	25,984 ± 7,832	55,000	16,000	25,519 ± 16,487	100,000	11,000			
1994 (平6)	134	-	-	4,864,000	36,299	-	-	-	-	-	-			
1995 (平7)	138	61	77	8,406,000	60,920 ± 24,003	51,689 ± 21,642	150,000	15,000	68,232 ± 23,371	136,000	6,900			
1996 (平8)	156	69	87	7,406,000	47,474 ± 19,044	42,681 ± 11,799	100,000	23,000	51,276 ± 22,594	200,000	22,000			
1997 (平9)	167	74	93	7,485,000	44,820 ± 17,853	40,703 ± 14,323	100,000	23,000	48,097 ± 19,694	160,000	10,000			
1998 (平10)	183	93	90	9,219,000	50,377 ± 22,972	37,763 ± 16,563	150,000	16,000	63,411 ± 21,990	167,000	13,000			

1) 市場記録なし

2) 市場精算用原簿不備のためJA長野県経済連市場結果より抜粋

変動している傾向が見られるものの、284 万円から 1,156 万円と年によってかなり大きな変動が見られる（表 4、図 12）。1 頭当たりの平均取引価格は、平成 5 年の 25,617 円を最低に、平成 7 年には 60,920 円と最高値を付け、約 2.4 倍の価格差が見られ大きく変動している（表 4、図 13）。また、雌雄共に取引価格の標準偏差が大きく、個体間で取引価格が非常に大きくばらついていることを示している。特に最高値と最安値を比較した場合、その価格差は 2.9 倍（昭和 63 年雄）から 44.2 倍（昭和 59 年雌）にまで及んでいる。群馬県及び愛知県との 2 カ所の市場と比較した場合、出場頭数、総売上金額（図 12）ともに長野県の下伊那子山羊市場が最も多くまた最も高かった。平均取引価格も他市場に比べ高く推移している。

平成 10 年の同市場に出場した 183 頭の山羊の飼養者について見ると、飼養者は 45 名で 1 人当たり 4.1 ± 6.6 頭（平均 \pm 標準偏差）の山羊を出場させ、最小 1 頭から最高 44 頭と飼養者により出場頭数に大きなばらつきが見られた。また同市場における山羊飼養者には高齢者が多く見受けられ、山羊飼養者の高齢化が進んでいるものと思われる。しかしながら一方で多くの頭数を出場させている若い飼養者も見受けられ、今後山羊飼養の経営規模は拡大していくものと思われる。さらに、JA 信州みなみのように県内で山羊肉の販売を行ったり、山羊乳のチーズ生産など新たな試みもなされている。

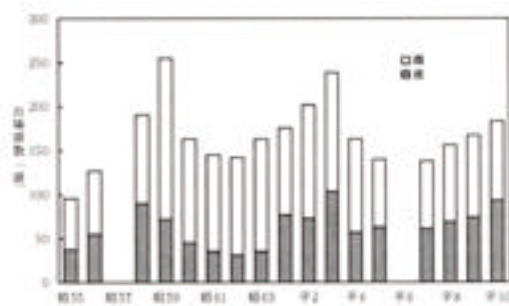


図 11 長野県下伊那子山羊市場の取引頭数の推移

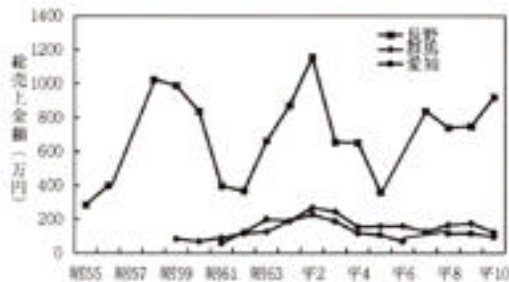


図 12 長野県、群馬県及び愛知県の山羊市場における総売上金額の推移

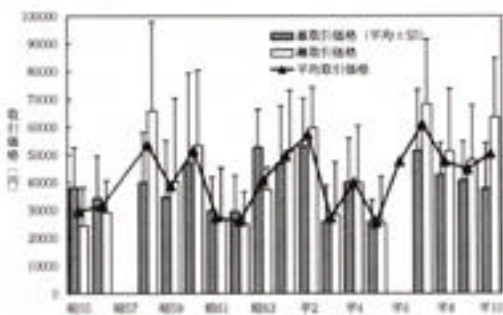


図 13 長野県下伊那子山羊市場の取引価格の推移

2) 群馬県渋川市における山羊市場の動向

(1) 群馬県の飼養状況

群馬県の山羊飼養は大正時代前期に、長野県から導入したのが始まりとされている。群

表5 群馬県の山羊飼養戸数及び飼養頭数の推移

年次	飼養戸数 ¹⁾ (%)	飼養頭数 ¹⁾	1戸当たりの頭数(頭/戸)
1975(昭50)	4,530(6.7%)	5,190(4.7%)	1.15
1986(61)	980(5.6%)	1,140(2.4%)	1.16
1987(62)	930(5.6%)	1,130(2.4%)	1.22
1988(63)	840(5.9%)	1,050(2.6%)	1.25
1989(平元)	750(6.0%)	920(2.5%)	1.23
1990(2)	690(6.2%)	840(2.4%)	1.22
1991(3)	600(5.8%)	770(2.1%)	1.28
1992(4)	530(6.0%)	700(2.0%)	1.32
1993(5)	520(6.4%)	780(2.3%)	1.50
1994(6)	460(6.5%)	760(2.5%)	1.65
1995(7)	-	-	-
1996(8)	-	-	-
1997(9)	270(5.1%)	580(2.0%)	2.15

農林水産省「畜産統計」より抜粋

1) 全国飼養戸数及び飼養頭数に占める割合

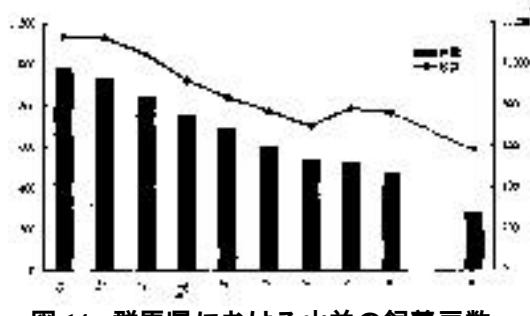


図14 群馬県における山羊の飼養戸数及び飼養頭数の推移

馬県内の山羊飼養は、長野県と同様に推移している。すなわち、大正時代から飼養頭数は徐々に増加し、昭和32年には34,110頭まで増加した。その後、食糧事情の好転と牛乳の普及に伴い飼養戸数及び飼養頭数は減少傾向に転じ、平成9年の飼養戸数及び飼養頭数は、それぞれ270戸及び580頭まで減少している(表5、図14)。また、平成9年の全国の飼養戸数及び飼養頭数に対する群馬県の戸数及び頭数の割合は、それぞれ5.1%及び2.0%と減少傾向にある。

現在の群馬県内の主な飼養地域は、赤城山南面の中部地域、(夢赤城山北西面の利根地域、(参平野部の高崎市及び安中市を中心とした西部地域の3地域である。

(2) 群馬県渋川市における種山羊交換会の動向

昭和34年に群馬県種牡山羊協会連合会が設立され、同会主催により種山羊共励会及び交換会が毎年9月下旬に渋川市で開催されている。昭和59年からの最近15年間の出場頭数について見ると、平成3年に雄32頭、雌35頭、合計67頭が出場したのを最高に、平均46頭の山羊が交換会に出場している(表6、図15)。交換会の平均総売上金額は151万円で、出場頭数に伴い変動している(表6、図16)。1頭当たりの平均取引価格は、昭和59年の21,275円を最低に、平成8年には47,257円と最高値を付け、約2.2倍の価格差が見られている(表6、図17)。

また、平成10年の平均取引価格は、21,912円と昭和59年に次いで低い価格となっている。取引価格の個体間のばらつきは、長野県に比べると小さいものの、最高値と最安値を比較した場合、その価格差は1.3倍(昭和60年雌)から4.0倍(平成8年雄)と平均2.7倍の価格差が認められる。長野県及び愛知県の2カ所の市場と比較した場合、平均取引価格は長野県よりも低いものの愛知県よりも高く推移している。

平成10年の同交換会に出場した57頭の山羊の飼養者について見ると、飼養者は18名で1人当たり3.2 ± 2.1頭(平均 ± 標準偏差)の山羊を出場させ、1飼養者の最高出場頭数は7頭であった。

また、同交換会における山羊飼養者は長野県と同様に高齢者が多く見受けられ、山羊飼養者の高齢化が進展しているものと思われる。また同交換会では特に夫婦で山羊を出場させている飼養者が多く、大変和やかな雰囲気であった。

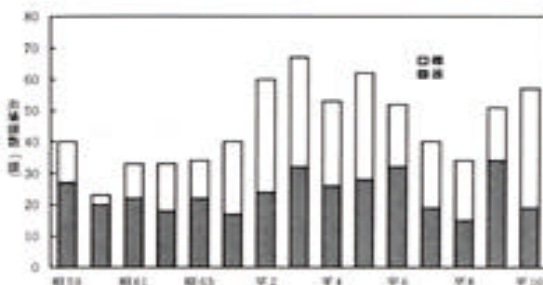


図 15 群馬県種山羊交換会の取引頭数の推移

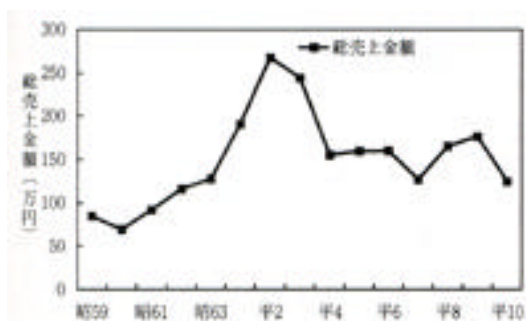


図 16 群馬県種山羊交換会における総売上金額の推移

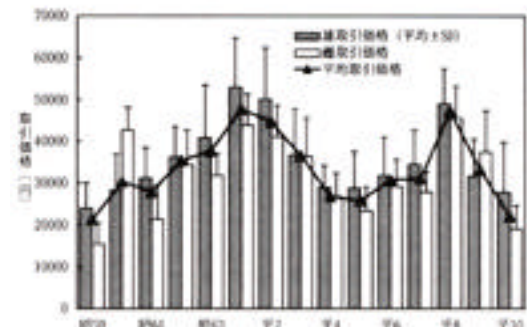


図 17 群馬県種山羊交換会の取引価格の推移

表6 群馬県種山羊市交換会の取引頭数及び取引価格の推移

年次	出場頭数			総売上金額(円)	取引価格(円)		雄 取引価格(円)				雌 取引価格(円)		
	合計	雄	雌		平均±SD	平均±SD	最高価格	最低価格	平均±SD	最高価格	最低価格		
1984(昭59)	40	27	13	851,000	21,275 ± 7,031	24,074 ± 6,120	36,000	13,000	15,462 ± 5,027	30,000	12,000		
1985(昭60)	23	20	3	696,000	30,261 ± 9,559	28,400 ± 8,641	48,000	12,000	42,667 ± 5,508	49,000	39,000		
1986(昭61)	33	22	11	921,000	27,909 ± 8,865	31,182 ± 7,307	51,000	20,000	21,364 ± 8,286	40,000	13,000		
1987(昭62)	33	18	15	1,165,000	35,303 ± 7,792	36,167 ± 7,374	50,000	20,000	34,267 ± 8,405	63,000	26,000		
1988(昭63)	34	22	12	1,280,000	37,647 ± 11,415	40,818 ± 12,655	71,000	18,000	31,833 ± 5,306	41,000	25,000		
1989(平元)	40	17	23	1,909,000	47,725 ± 10,466	52,941 ± 11,824	77,000	35,000	43,870 ± 7,479	57,000	30,000		
1990(平2)	60	24	36	2,680,000	44,667 ± 10,618	50,083 ± 12,268	90,000	34,000	41,056 ± 7,589	60,000	23,000		
1991(平3)	67	32	35	2,447,000	36,522 ± 10,091	36,719 ± 11,046	61,000	21,000	36,343 ± 9,292	65,000	20,000		
1992(平4)	58	26	27	1,552,000	26,759 ± 6,386	28,962 ± 5,188	38,000	20,000	26,741 ± 5,654	39,000	17,000		
1993(平5)	62	28	34	1,598,000	25,774 ± 7,721	28,750 ± 8,818	48,000	15,000	23,324 ± 5,735	33,000	9,000		
1994(平6)	52	32	20	1,599,000	30,750 ± 8,355	31,781 ± 9,262	59,000	18,000	29,100 ± 6,537	45,000	21,000		
1995(平7)	41	19	21	1,272,000	31,024 ± 7,354	34,421 ± 8,315	46,000	17,000	27,857 ± 4,922	38,000	21,000		
1996(平8)	35	15	19	1,654,000	47,257 ± 7,913	49,067 ± 8,293	67,000	37,000	45,579 ± 7,603	57,000	32,000		
1997(平9)	53	34	17	1,764,000	33,283 ± 9,496	31,676 ± 8,872	59,000	18,000	37,412 ± 9,900	47,000	17,000		

3) 愛知県新城市における山羊市場の動向

(1) 愛知県の飼養状況

愛知県内の山羊飼養は、全国の山羊飼養と同様に推移し、昭和32年には25,000頭まで増加した。その後、飼養戸数及び飼養頭数は減少傾向に転じ、平成2年の飼養戸数及び飼養頭数は、それぞれ80戸及び110頭まで減少した(表7、国18)。その後一時期増加したものの、平成9年の飼養戸数及び飼養頭数は、それぞれ60戸及び140頭となっている。

また、平成9年の全国の飼養戸数及び飼養頭数に対する愛知県の戸数及び頭数の割合は、

表7 愛知県の山羊飼養戸数及び飼養頭数の推移

年次	飼養戸数 (%) ¹⁾	飼養頭数 (%) ¹⁾	1戸当たりの頭数 (頭/戸)
1975 (昭50)	970 (1.4%)	1,170 (1.1%)	1.21
1986 (61)	150 (0.9%)	190 (0.4%)	1.27
1987 (62)	140 (0.8%)	170 (0.4%)	1.21
1988 (63)	120 (0.8%)	160 (0.4%)	1.33
1989 (平元)	90 (0.7%)	120 (0.3%)	1.33
1990 (2)	80 (0.7%)	110 (0.3%)	1.38
1991 (3)	90 (0.9%)	190 (0.5%)	2.11
1992 (4)	100 (1.1%)	180 (0.5%)	1.80
1993 (5)	90 (1.1%)	200 (0.6%)	2.22
1994 (6)	80 (1.1%)	130 (0.4%)	1.63
1995 (7)	-	-	-
1996 (8)	-	-	-
1997 (9)	60 (1.1%)	140 (0.5%)	2.33

農林水産省「畜産統計」より抜粋

1) 全国飼養戸数及び飼養頭数に占める割合

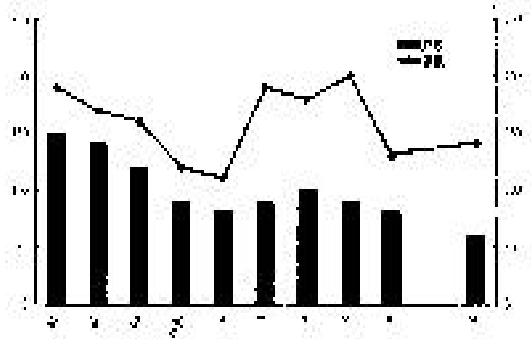


図 18 愛知県における山羊の飼養戸数及び飼養頭数の推移

それぞれ 1.1 %及び 0.5 %となっている。

(2) 愛知県新城市における新城山羊市場の動向

昭和 61 年から愛知県緬山羊協会主催による子山羊品評会及び県経済連主催による新城山羊市場が毎年 5 月下旬から 6 月上旬にかけて新城市の家畜市場で開催されている。昭和 61 年から平成 10 年まで 12 回開催された市場への出場頭数について見ると、平成 4 年に雄 67 頭、雌 78 頭、合計 145 頭が出場したのを最高に、平均 92 頭の山羊が市場に出場している(表 8、図 19)。市場の平均総売上金額は 135 万円で、ほぼ出場頭数に伴い変動している(表 8、図 20)。1 頭当りの平均取引価格は、平成 4 年の 8,083 円を最低に、平成 2 年には 22,538 円と最高値を付け、約 2.8 倍の価格差が見られている(表 8、図 21)。平成 8 年から平成 10 年の平均取引価格の推移を見ると、21,343 円から 14,875 円に下がる傾向が見られる。長野県及び群馬県の 2 カ所の市場と比較した場合、本市場は最安値を付けた個体の価格が他の市場に比べ著しく低く、市場の開催時期と何らかの関連があるものと思われる。

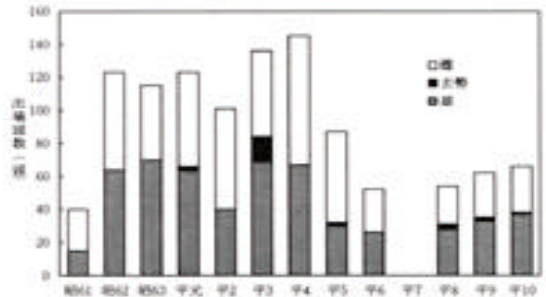


図 19 愛知県新城山羊市場の取引頭数の推移

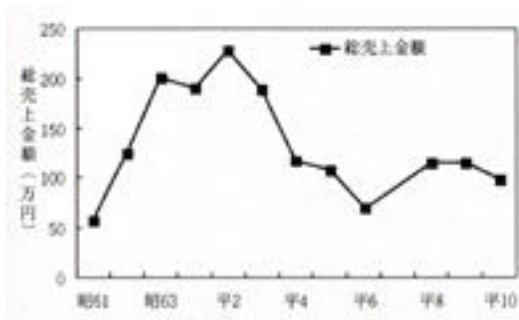


図 20 愛知県新城山羊市場における
総売上金額の推移

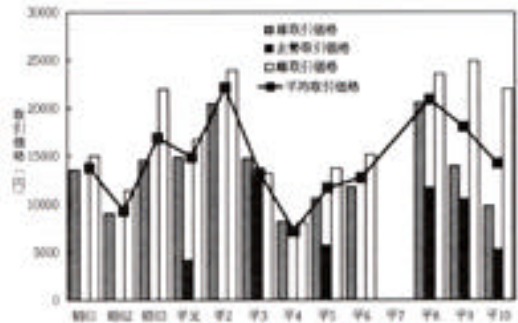


図 21 愛知県新城山羊市場の取引価格の推移

表3 愛知県新城山羊市場の取引頭数及び取引価格の推移

年次	出場頭数				総売上 金額(円)	平均取引 価格(円)	雄 取引価格(円)			雌 取引価格(円)			去勢 取引価格(円)		
	合計	雄	雌	去勢			平均	高値	安値	平均	高値	安値	平均	高値	安値
1986 (昭61)	40	15	25	-	577,000	14,425	13,500	53,000	4,100	14,980	80,000	3,700	-	-	-
1987 (昭62)	123	64	59	-	1,245,600	10,127	8,977	111,000	1,000	11,375	36,200	200	-	-	-
1988 (昭63)	115	70	45	-	2,007,000	17,452	14,543	42,000	2,000	21,978	73,000	8,000	-	-	-
1989 (平元)	123	64	57	2	1,908,590	15,517	14,822	103,000	2,060	16,697	54,590	3,090	4,120	4,120	4,120
1990 (平2)	101	40	61	-	2,276,300	22,538	20,471	51,500	6,180	23,893	48,410	4,120	-	-	-
1991 (平3)	136	69	52	15	1,897,080	13,905	14,733	42,230	1,030	13,133	28,840	1,030	12,772	20,600	2,060
1992 (平4)	145	67	78	-	1,172,140	8,083	8,132	29,870	1,030	8,041	20,600	1,030	-	-	-
1993 (平5)	87	30	55	2	1,080,470	12,419	10,540	30,900	1,030	13,689	42,230	3,090	5,665	8,240	3,090
1994 (平6)	52	26	26	-	698,340	13,429	11,765	20,600	3,090	15,093	31,930	3,090	-	-	-
1995 (平7)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1996 (平8)	54	28	23	3	1,152,570	21,343	20,563	113,300	6,180	23,555	82,400	7,210	11,673	12,360	11,330
1997 (平9)	62	33	27	2	1,151,850	18,578	13,904	37,800	4,200	24,888	53,550	7,350	10,500	13,650	7,350
1998 (平10)	66	37	28	1	981,750	14,875	9,762	26,250	2,100	21,975	50,400	5,250	5,250	5,250	5,250

